

「国籍条件」によって除外されることなどさまざまである。その中でも私が一番理解できないのは、日本人女性と外国人男性の間に生まれた子供には、父親が外国人だという理由で母方の氏字が戸籍謄本に付けられる事である。どうしてもそれが気に入らない父親は、奥さんに氏字を変えてもらうしか道がないとのことである。雇用の場合でも外国人はほとんど短期契約で雇われ、出世も極めて難しいと言われている。

もちろん、バブル時代のような労働力不足の穴埋めのための外国人無制限受け入れは決して望ましいことではなく、ヨーロッパで見られるような大変な結果、すなわちファシズムの発生を招く可能性があることに注意すべきである。もうすでにマスコミが「外国人犯罪の増加」などの見出して外国人と犯罪を結びつけ、反外国人感情を引き起こそうとしているのは残念なことである。そもそも犯罪は特定の国民や人種の問題ではない。



活発な企業活動と社会の課題

マハリ アブラハム
(愛知製鋼(株)研究開発部)

日本の企業と社会について広い範囲のことを日本語で書くのは私にとって非常にむづかしい。私自身が日本へ来て身近に感じたことを素直に書きたいと思う。

十年前、私がJICA (国際協力事業団) の研修生として初めて日本に来るまでの私の日本に対するイメージは“すぐにこわれてしまう物を造る国”であった。しかし九ヶ月の研修期間で私が感じたことは自分の考えが大きく違っていたことである。研修の中で行われた企業見学で見たものは、整った設備と清潔で働きやすい職場環境であった。企業は積極的に設備投資をして、新しい技術の導入等で、よりクオリティーの高い製品を造る努力をしている。実際、自分自身が日本の会社で働いてみて、その作業の効率の良いのには感心した。設備が整っていない、製造過程においても工具がそろっていない、時間をかけて、ようやく製品を造りあげても、それを運ぶ方法がない、何をやるにも時間がかかってしまう私の国 (エチオピア) とは大きな違いを感じた。システム化された作業はその能率を上げている。

例えば私が働いている愛知製鋼ではトヨタの看板システムがとり入れられている。それはトヨタに於ける自動車の製造に“JUST ON TIME”で直結しているのである。このように他の

最近の不況で外国人に限らず日本全体でも増えているのであって、貧しさと置かれている状況の厳しさ故に生まれるのである。不況の影響をもっともひどく受けているのは外国人だということから、このグループの間に犯罪が増えても決しておかしいことではないと思う。そして当然だが、さらに注意する必要があるのは少数の人間の行動で、一つのグループやその国の全体を批判、または判断してはいけないと思う。

日本社会を単元素金属の組織に例えると、外国人は組織に溶け込めない介在物のように見える。全人口の1%以上が外国人という今、彼らが偏析することによって全組織に悪影響を与える前に、介在物から自分の特長を生かして組織に尽くせる合金元素へと立場を変えられるような社会制度の改革が必要ではないだろうか。もちろんこの場合にも適正な配合が必要であることは明らかである。

企業でも研究や技術開発が進められていると思う。そして、より生産性を向上させたため日本の企業は世界の中でも1, 2の位置を占めるほどに成長したと思う。しかし日本の人件費は高く、それが製品のコストに影響をおよぼしているのも事実である。ようするに日本の物は何でも高い!!

確かに日本では良い物、新しい物がどんどん造られる様になった。しかし物に対する日本人の価値観は、我々外国人から見ると少しおかしな気がしないでもない。めずらしい物、新しい物にはすぐにとびつくが本当に良い物を大切に長い間使うという習慣がなくなっているのではないだろうか? 日本ではお金さえあれば、ほとんどが何でも手に入るが、まだ充分に使える不用品があふれ、その始末に困っているのも事実である。我々から見ると本当にもったいない話であるが、今、日本ではゴミ処理は大きな社会問題となっている様である。まだ使えるものを修理するための部品が製造されていないというのも問題だと思う。

最近ではリサイクル運動も盛んになってはいるが、その開発はまだ遅れている。新しい物を造るよりもリサイクルの開発の方がお金がかかり過ぎるという問題がある様だが、いかに安く、それを可能にする事が出来るかを考えるべきだと思う。又、過剰包装等、無駄なものももう少し規制されても良いのではないだろうか? さらに、社会と企業とのかかわり方を考える時まだいろいろな問題が残されていると思う。



日本の社会及び日本人の仕事に対する姿勢

劉 鈺
(住友軽金属工業(株)技術研究所)

資源が乏しく、国土も狭い日本が急速な経済成長を成し遂げた。今やアジアだけでなく、世界のリーダー的な存在となったことは、同じアジアに住む私達にとって驚きである。「百聞は一見にしかず」という諺があるように、真実は人に聞くよりも見た方が納得すると思ひ、また、日本の先進技術を学びたいと思ったので、日本に留学することに決めた。

今、日本に来てからもう6年目である。一昨年名古屋工業大

学材料工学科を卒業し、現在住友軽金属工業(株)の技術研究所に勤めている。最初、日本に対するイメージは、美しい自然、伝統的な文化、優しい人々であった。特に日本人は礼儀正しく、思いやりがあると、私は実感した。言葉の中でも、私、僕、俺など使い分けられているし、あなた、おまえ、君など、英語、中国語では、一つの言葉で済んでしまうのに、日本では様々な表現で使い分けされている。

時間が経つとともに、日本社会についての観察範囲は広がってきた。強い印象を受けたことが2つあった。一つは交通網の発達ぶりであり、もう一つは仕事への取り組み方である。

交通は国の動脈と同じような役割を演じる。工業・商業の発達に大きな影響を与えるのである。日本の交通機構は非常に発